

アトリエ 琉游舎 だより 63号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/
 琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

2019年10月9日発行

褐葉 黄葉 紅葉

- 紅葉前線が動きはじめました。紅葉シーズンは那須も塩原も日光もどこの名所も人と車で一杯です。昨年那須方面に山登りに出かけたなら駐車場が満車で諦めて帰ったことがあります。普段ガラガラの駐車場は紅葉シーズンだったからなんだと後で気づいた次第です。
- 私は日ごとに葉の色が変化していく景色の中で暮しているのです、わざわざ紅葉の名所に出かける必要がありません。ここコリーナは名所のように絨毯を敷き詰めた紅葉一色という場所ではありませんが、褐色の葉っぱの木々の中に、所々紅葉の木や、黄葉の木や、葉っぱをもうすでに落としてしまった木や、そのバックには緑の鮮やかさを失った針葉樹の木々たちが、各々の葉の個性を主張しながらコリーナの森全体の調和を醸し出しています。これがコリーナの秋の「紅葉（褐葉 黄葉 紅葉）」です。
- 樹木は生きるために葉を落としその葉は生きるために紅葉するのでしょうか。冬を乗り切るために、なるべく余計なエネルギーを使わない生存のためのメカニズムが紅葉です。
- 紅葉に必要なものは夏の適度な気温と日照と降水、そして秋の昼夜の寒暖差です。今年のコリーナの紅葉はどうでしょうか？昨年は長く住まわれている方が「コリーナに住んでこんなにきれいな紅葉は初めてだ」と感激されていたことを覚えています。
- 10月の半ばではまだはっきりと目に見える紅葉にはなっていないように思えるかもしれませんが、でも間違いなくコリーナの森の色は落葉に向かって日々変化しています。特に朝陽と夕陽に照らされ風に揺れる森の色は朝晩の散策の眼福です。緑葉が褐葉黄葉紅葉となりそして落葉。その一切を日々目の当たりに出来る贅沢なコリーナの秋です。

詩話会

10月12日(土)
13時半から

居酒屋の会

10月25日(金)
16時から

写経会

11月3日(日)
13時半から

映画会

毎週木曜日
13時半から

読書会

10月22日(火)
13時半から

「歎異抄」を2段ずつゆっくり読んでいます。テキストもあります。途中からの参加もOKです。

10/10	13時半	タイタニックの最期(98分)	バーバラ・スタンウィック、クリフトン・ウエップ主演。タイタニックの処女航海。
木			スタージェスー一家は裕福であったが家族関係に亀裂が生じていた、そこに冰山が、、、
10/17	13時半	愛しのシバよ帰れ (96分)	バート・ランカスター主演。学生時代に知り合い妊娠が分かったため結婚を急いだ夫婦。
木			しかし子供は死産だった。冷え切った二人の関係のもとにある少女が現れる。
10/24	13時半	我等の町(90分)	ウィリアム・ホールデン、マーサー・スコット主演。小さな町の幼なじみの男女の恋愛
木			を軸に、人間にとって一番大切なものは何かを解き明かしていくヒューマンドラマ。
10/31	13時半	上海特急 (82分)	マレーネ・デイトリッヒ主演、20世紀初期の中国、北京から上海に向かう特急列車が舞台
木			上海リリーをはじめ医師、商人などが入り交じり愛と裏切りのドラマが繰り広げられる。
11/7	13時半	愛の調べ (118分)	女性音楽家クララ・シューマンの半生を描いた伝記ドラマ。両親の反対を押し切って
木			作曲家ロベルト・シューマンと結婚したクララをキャサリン・ヘップバーンが演じる。
11/14	13時半	ガス燈 (113分)	イングリッド・パークマン主演、知り合った音楽家と恋に落ち、幸せな結婚生活を思い
木			描いていた主人公。しかし次第に彼女は精神を冒されて、、、究極のサスペンス映画。

狂言綺語…即是道場(生死不二)

私は「日蓮宗の僧侶です」と自己紹介するとき、居心地の悪さをいつも感じています。その後と言いつがましく「私は檀家も持っていませんし職業として僧侶をやっているわけでもありません」と付け加えてしまうのは、私の考える「僧侶」と「僧侶」の実態の間に違和感を感じているからなのでしょう。確かに私はいくつもの試験を受け、最終的には35日間の結界修業を終了して「准講師」という免状を「日蓮宗」から頂きました。それは裏千家の茶道師範や草月流華道師範のお免状と同類です。それを持っていけばその流派の看板を掲げて弟子を取って月謝を頂くことが出来るという資格と同じように、日蓮宗の看板を掲げて法要の導師を演じその対価としてお布施を頂いても良いという資格です。「茶道は茶を点て振る舞う行為(儀式)に過ぎない」「華道は植物を美的に飾る行為(技術)に過ぎない」と言ったら怒り出す人がたくさん出てくるでしょう。もちろん茶道や華道がそんな表面的でないことは承知の上での暴言なのですが、それでは僧侶は導師(技術者)として法要(儀式)を行う者に過ぎないと言ったとしたらそれも暴言でしょうか。

ここで皆さんに私が日蓮宗の資格を最終的に得たときの修業についてお話しします。まず修行の心構えの第一は「三宝給仕」と「道場莊嚴」にあります。「三宝」は「仏・法(教え)・僧」のことで、日蓮宗ではそれぞれ「久遠実成の釈迦牟尼仏」「妙法蓮華経」「日蓮聖人」となります。この三宝のおそばでいろいろな用をしてお仕えすることが「三宝給仕」です。「道場莊嚴」は三宝の住まわられている場所(道場)をそのお住まいにふさわしい場所として莊嚴(飾)することです。この二つの心を養い具体的な所作を身につける中で法要儀式の習熟のための式作法である「尊重の心」と「厳粛な態度」の二つが徹底的に仕込まれます。朝四時の水行から始まり夜九時までの時間は三宝への給仕と式作法の修練のための時間です。その間の食事掃除も歩くことも話すことも衣食住の全てが修業の時間です。結界の中で修業するわけですから修行僧にとっては外の世界は存在しないと同等なのです。というとても大変なことのよう聞こえますが、本来何かを習得するという事は余計な雑音がなく集中できる環境が必要だと考えればこの結界修業も非常に合理的で技術の習得には最適な方法だと思われれます。当時私が消灯までのわずかな時間に付けていた日記を読み返すと「つらい修業と聞いていたが思いのほか楽しい毎日である。所作と心構えの習得という観点からはとても良く出来たシステムだ」と書いてあります。「ここは僧侶の職業訓練校だ」とまで書いてあります。

私が僧侶としての資格を習得した目的は日々の行いの「基礎=信」を強固に築くことにありました。現在の私の毎日は朝勤と琉游舎という「場」を作ることを通じて「三宝給仕」と「道場莊嚴」を実践しています。以前にも書いたように注1朝勤はお釈迦さまへの朝のご挨拶と一日をありのままに行うことへの心と体のウォーミングアップであり、基礎(信)への感謝とそれが不動であることへの確認です。基礎だけ作ってその上に建物を建てなければその基礎は何の意味もないと同じように、基礎(信)の上に「行い」を積み上げていかなければ、「三宝給仕」も「道場莊嚴」も形骸化してしまいます。「形式」と「技術」に安住して「行い」を怠る僧侶は資格だけの僧侶ということになるでしょう。基礎の上に積み上げる行いの日々があって、初めて私は僧侶となるのです。冒頭の自己紹介の言葉への違和感はそこに由来するものなのです。

私は琉游舎での法要の他に葬儀場やご自宅に伺って法要を執り行うことがあります。法要の技術は免状で保証されているので問題はないと自負はしていますが、免状が保証する尊重の心を持って厳粛に行う儀式は法要の基礎にしか過ぎません。その基礎に積み上げる法要の「行い」とはなんなのでしょうか。それは施主を初めとした参列の皆さんと供養される方との間に立って、お互いの心を行き交い語らう場を現前させることです。「生者」と「死者」とをお釈迦さまの神通力をお借りして感応道交させることにあります。法要は「生者」と「死者」の出会う「場」つまり「生死不二」の「場」なのです。仏さま(死)の働きかけとそれを感じ取る私たち(生)の心とが通じ相交わるこの場所が感応道交の「場」です。僧侶は法要を導師として執り行うことで「生」と「死」がお互いの働きかけに応じて心が相交わる「場」を「道場」の中に現前させる「者」です。私はその「者」になるために日蓮聖人の教えを通してお釈迦様の力をお借りし、その勤めを果そうとしている「者」です。その時初めて私は「日蓮宗の僧侶」となることができるのです。

法要を儀式と規定してしまうことは大きな間違いです。法要は「生死不二」の「場」です。葬儀や彼岸などの法要を儀式と呼ぶと分かり易いでしょうが、それは儀式の形を取っているだけで本来の役割はその場に「生死不二」の「場」を現前させることです。「当知是処 即是道場」(当に知るべし是の処は即ち是れ道場なり)注2法華経は「教えのあるところそこは全て道場である」と教えています。仏壇と本尊があり香と花と蠟燭があるところだけが道場ではありません。「教え」があるところは全てそこが道場です。「教え」は「信」と「行い」によって私たちの前に現前します。信行一致のところはすなわち道場であり法要の場であり生死不二の場となります。私たちの生きているこの場所と毎日が全て道場なのです。

「書を捨てよ、町へ出よう」注3という歌人の言葉は「書で蓄えた知識を今こそ町で実践しようじゃないか」という意味でしょう。「さあ修業で蓄えた信の力を町に出て実践(行い)しようじゃないか。そして町という道場の中で日々修業を続けようじゃないか！」これが僧侶である私自身 琉游舎：戸井 出琉・恭子へのメッセージであり誓いです。(出琉)

お問い合わせ先：0287-53-7848 08033508152

矢板市大槻2319-17 コリーナ矢板C-850